[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日　平成 20年 9月16日

【評価実施概要】

事業所番号	1292100011		
法人名	有限会社ウェルフェア		
事業所名	グループホーム秋津		
所在地	〒275-0025 千葉県習志野市秋津4-6-7 （電　話）047-454-7860		

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア研究所		
所在地	〒260-0026　千葉県千葉市中央区千葉港4-4千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成20年9月16日	評価確定日	11月19日

【情報提供票より】（20年8月18日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成15年5月1日	
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計　9　人
職員数	10　人	常勤専任8名，常勤兼務1名，非常勤1名，常勤換算4.2人

（2）建物概要

建物構造	木造
	2 階建ての　1 階 ～　2 階部分

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	49,000円1室，58,000円1室，60,000円4室，62,000円2室，78,000円1室			
その他	食費45,000円，水道光熱費20,000円，管理費12,000円，消耗品費実費			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有（500,000円）	有りの場合 償却の有無	有り（期間：償却分15万円，30ヶ月にて）	
食材料費	朝食	250　円	昼食	700　円
	夕食	550　円	おやつ	0　円
	または1日当たり　1,500　円			

（4）利用者の概要（8月18日現在）

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	2	名	要介護2	3	名
要介護3	2	名	要介護4	2	名
要介護5	0	名	要支援2	0	名
年齢　平均	84.1 歳	最低	77 歳	最高	92 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	津田沼中央病院，谷津パーク診療所，小林歯科医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成15年5月に開設し、今年で5年目を迎えた。谷津干潟に程近い、静かな住宅街に位置する同ホームは、女性ばかり9名の入居者と馴染みの常勤職員とで、こぢんまりと生活している。ホーム建物は民家を改造したものだが、入居者の高齢化に伴い、段差や風呂場の作りなど、将来に向けての見直しが必要となり始めている。法人理念やホームの目標なども、より一層入居者本位かつ地域に開かれたホームとすべく改訂を行っており、つねによりよいあり方を模索している印象を受けた。一方でベテラン常勤職員とパートタイマーとの連携強化、ケアや緊急体制の標準化（マニュアル作成）などの必要もあると感じられる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	**前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）** 記録物の整理については、話し合いを行った。特にパートタイマー職員の気づきを記録に残すようにし、情報共有に努めるようにしている。 **今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）** 自己評価票の記入は、主として主任職員が行った。常勤職員・パートタイマー職員のすべての意見を反映しているとは言えない。
重点項目②	**運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）** 運営推進会議は、ホーム関係者の他、民生委員、地域包括支援センター職員、介護相談員らで過去2回ほど行っている。話の内容は、ホームの現状報告などが中心である。うち1回はホーム主催の七夕祭りに参加してもらうことで運営推進会議に代えた。
重点項目③	**家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）** 運営推進会議や面会時等に、家族の意見・意向を伺うようにしている。しかしながら、特に意見等は出ていない状況である。家族がホームの運営に満足しているからなのか、遠慮のためなのか、今後も折りに触れて意見・意向の汲み取りに努力し、より良いサービスの向上に歩んでほしい。
重点項目④	**日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）** 小学校、中学校との関わりに積極的である印象を受ける。運動会見学や生徒の訪問の受入れ等行っている。自治会参加等は施設長が中心となって行っている。

2．評価結果（詳細）

（　部分は重点項目です　）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
0	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者が、これまでの生活で関わっていた人々や環境との繋がりを断ち切らないよう配慮する旨のモットーを作り、地域に開かれたホームとなるよう努力している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	認知症を正しく理解した上で、入居者の尊厳に配慮し、家族的なケアサービスを提供できるよう努めている。常勤職員のみならず、パート職員にも意識徹底するようにしていくと、更によいと思われる。		
2．地域との支えあい					
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小・中学校との関わりに積極的である。また、日々の食材を、職員・入居者とで地域の店に買い物に出かけている。それ以外にも、公園に出かけるなど、様々な外出の機会を作るようにしている。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年度の評価結果は、職員に配布し、運営推進会議でも報告した。アセスメントの取り方については、職員相互に話し合いを持ち、気づきをノートに書き込んでいくようにした。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	主としてホームの紹介を中心に行っている。ホーム行事に参加してもらい、理解を深めてもらったこともある。運営推進会議は、地域との繋がりを保つものとして位置づけている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市主催の「介護サービス向上会議」や地域包括支援センターによる「地域ケア会議」に参加し、地域密着型サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月家族へ、入居者の写真付きの手紙や買い物の領収書、サービス提供書を送付している。急ぎの場合は電話等で随時連絡を取っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会等は特になく、家族の意見を聴取する機会が少ないように感じられる。	○	家族がホームに対して思っていることを、忌憚無く発言できるような関係作り及び場面作りが求められる。職員側の考えもあるだろうが、家族の考えを受け入れる柔軟性も必要と思われる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	常勤職員の入替わりは、この1年には無かった。パートタイマー職員の入替わりはあるが、特に入居者への影響などは出ていない。		
5．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新しい職員が入ったら、ベテラン職員が見守り、実力を見ながらフォローしていく。医療に関しては、看護師の資格を持つ職員が、勉強会を計画中である。外部の研修にも参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症の人を支援する専門職・千葉連絡会のスタッフとして、同業者と交流する機会を持っている。講演会や研修等の企画を行っている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ここのところ、新規の入居者がいないが、入居の際は、見学・体験入居をしてもらい、ホームの様子を知ってもらった上で移り住めるよう、配慮している。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事に関しては、献立を考え、買い物をし、調理することを、職員と入居者が共に行っている。職員は入居者の出来ること・出来ないことを概ね把握し、その場の雰囲気を感じ取りながら、入居者に声かけをしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者とは私の出来ること、出来ないこと等が記載された「私の暮らし方シート」を基本にして接している。また、職員の気づきは随時、ノートに書き込むようにしている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	ケースカンファレンス（対象者に関する評価を共有し、治療計画を立て、共同して実行する会議）を3ヶ月毎に行い、介護計画を作成するに当たり、スタッフ、入居者、家族を交えて行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は短期3ヶ月、長期6ヶ月毎に、家族からの要請、入居者の個別記録を基に見直している。バイタルチェック（体温、呼吸・脈拍・血圧等チェック）は毎回おこなっている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	津田沼の特養等のバックアップ施設や、外出、外泊等送迎支援、利用者の家族が宿泊できる設備を設けたりして、事業所の多機能性を生かした支援をしている。		
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力機関の診療所内科医、歯科医による2週毎の訪問診察を受ける他、入居者の今までの掛かりつけ医や、入居者･家族等が希望する医療機関への診療は、家族対応で処理している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	過去に看取りの経験があり、緊急時対応の取決めもされている。終末期ケアを行うに当たっては、本人･家族･スタッフ･医療機関が話し合い、その人にとって素晴らしい人生のフィナーレを迎えられるよう心掛けている。ターミナルケアは個別対応が原則だが、関係者全体の方針統一を図るため、ホームとしての終末期ケア方針が明示されていると、更によいと思われる。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1．その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護については、職員が秘密保持の誓約書をホームに提出し、守秘義務を徹底している。羞恥心や尊厳などプライバシー保護に関しては、職員の倫理綱領を指針とし、意識してケアにあたるようにしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の希望を出来る限り支援しているが、ホームの業務スケジュールを優先することも有る。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立づくりから調理、片付けに至るまで、食事に関する一連の流れを入居者も参加して行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夜間入浴は難しいが、出来うるかぎり入居者の希望にそうようにしている。勤務の関係で異性介護もある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	残存機能の復活を促す為、自分の事は自分で行う支援をする傍ら、自発的に役割分担し、名前の記載の無い食器や箸を、各人に分別手渡したりしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気晴らし支援の一環として、散歩、地域行事参加等の外出、家族参加型の旅行の支援もしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中はセンサーを玄関に取付鍵掛けはしないが、夜間は玄関に鍵掛をしている。支援要請は警察署、消防署だけで、特に自治会、町内会への働きかけはしていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力のもと、年2回避難訓練をしているが、救出救護、避難誘導、給食給水等の役割分担はしていない。		地域住民との防災協力、2方向避難路の設置、事故防止マニュアルの策定が望まれる。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分確保、便秘状況はおおよそ把握しているが、各人別のチェック表は無い。感染症対策として、厨房にウェルバス消毒液を設置している。食材は毎日買出し、余り食材は冷凍保存して翌日消化している。		感染症マニュアルの策定、購入食材の当日消化、まな板は魚肉の使い分けが望ましい。
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、ﾄｲﾚ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関回りは段差が多く、車椅子利用者の為に、職員がコンパネでスロープを作ったりして対応している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室への持ち込み制限は特に無いが、火災予防の為、仏壇へのローソク、線香は禁止している。TVは共同の居間のカラオケを良く見ているが、放送はあまり見ていないようで、自室にTVを置いている人は少ない。		